

令和4年度 第3回 京田辺市社会教育委員会議
会議要旨

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) 京田辺市文化振興計画中間評価事業について

事務局より報告

(委員) 懇話会にはどのような方が参画しているのか。

(事務局) 学識経験者や文化団体の方などが入っている。

(委員) アンケートの内容はどのようなものか。

(事務局) 文化の鑑賞機会や文化活動の内容、文化振興のためのどのような施策が必要か、という内容。

(2) 京田辺市野外活動センターに係る運営見直しについて

事務局より報告

(委員) 文化振興計画や施設のことについて、社会教育の課題なども取り入れて欲しい。

(委員) 運営を民間に委託すると料金が高くなってしまふなどのリスクがあり、運営方法の見直しも慎重にして欲しい。今後も社会教育委員の場で意見を聞いて欲しい。

(事務局) 現在は見直し内容の検討中なので、今後、内容がまとまった時点でまた、意見を聞く。

(3) 全国社会教育研究大会(10/27～10/28)参加報告

出席委員より大会内容について報告

(4) 京都府社会教育研究大会(11/17)参加報告

出席委員より大会内容について報告

(5) 京田辺市の社会教育について

資料の概要について、事務局より説明

(委員) 地域で運動会を行っても、特に若い世代などは参画してもらえない。現役世代は忙しくしており、取り込むことが難しい。

(委員) 若い父親などもあまり地域に出てこないが、子ども等の接点があれば、参加してくる。そういうきっかけで会話から始まり、次のきっかけに繋がるのでは。

(委員長) 学生など若い層が関わって欲しい。若い層を取り込むために工夫したワークショップなどをしていってもよいのでは。

(委員) 若い層は、魅力のある企画、新たな学びの機会などインセンティブがあれば参加してくると思う。そういうニーズは多くあるが、そのマッチングが必要となる。

(委員) 南部まちづくりセンターのカフェでは大学生が関わっている。そのような場、きっかけが必要。

(委員) 大学生が地域の活動に協力すると、大学での単位が取れるといったメリットがある企画なら、もっと若い層の参加も見込めるのでは。

- また、ICTなども利用して参加を促してもよいのでは。
- (委員長) ボランティアのみをあてにしているはいけない。以前に学生と行った、レモンを使ってまちの名産品を作るという企画では、皆が楽しんで主体的に活動していた。若い層が関わってもらうには、このような、魅力ある企画が必要。
- (委員) 企画内容や学習の質をよくしていくためには、団塊の世代などを活用していてもいいのでは。
- (委員長) いろんな層をターゲットにした学びの場が必要。
- (委員) 昔は、子ども会、青年団等の各世代が活動する場があったが、これらが衰退し、個人で活動するようになってきた。新たなきっかけが必要となる。例えば、成人式などは良いきっかけになるのでは。また、子どもの安全を地域が守るといような啓蒙活動も社会教育の役割だと思う。近所の人が集まる場づくりなど何らかの仕掛けが必要。
- (委員) 地域で活動する人たちを繋げる役割、こまめに動いてくれるコーディネーターが必要となる。
- (委員) コーディネーターなどの大変な役は誰が担うのか。
- (副委員長) 学生などをコーディネーターとして取り込んでいけないのか。
- (委員) 南部まちづくりセンターにはコーディネーターがいて、ワークショップなどを行っている。ただ、新興住宅地と旧村の連携がうまくいっていない。
- (委員) 様々な団体や、人々を巻き込んでいく力のある人が必要。
- (委員) 多くの人を巻き込む活動が必要だが、誰がそれを行うのか。
- (副委員長) 社会教育は時間をかけて、少しずつでも前に進めることが必要だと思う。

4 その他

- ・令和4年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について
- ・市民まつり社会教育課ブースでの展示結果について

5 閉会 副委員長あいさつ